

2015年度 公益社団法人乙訓青年会議所  
理事長所信

公益社団法人乙訓青年会議所  
理事長 三宅尚嗣

## はじめに

昭和20年に終戦を迎えた我が国日本に於ける青年会議所運動は、戦後の荒廃の中から経済再建の使命に燃えた祖国を愛する青年の情熱が発端となり、「新日本の再建は、我々青年の仕事である。改めて述べるまでもなく、今日の日本の実情は極めて苦難に満ちている」という祖国再建への使命感を共にした同志が集い、青年会議所運動の灯りが燈されました。やがて、その情熱の波紋は各地に広がりを見せ始める中、当時の乙訓の地は時代変革の移り変わりもめまぐるしく、極度の合理化志向の社会にあつて青年達は住民との連携や協調、あるいは共存共栄の精神を置き去りに、地域社会への情熱が離散し、まとまりある郷土育成の力が欠如してきた事を見逃さざる事実でありました。そんな状況に危機感を持った当時の若者が「今こそ我々は郷土愛を再認識し、自らの研鑽を通じて、友情を深め、明るい豊かな社会の建設に貢献せねばならない」という志の下に、乙訓青年会議所は1979年に全国で659番目の青年会議所として誕生しました。まさしく「混沌という未知の可能性を切り拓く」変革の能動者であります。現実としてはいつの時代、どこの社会にも混沌はあり、それを切り拓き、新たな秩序を作り出す事が出来るのが我々青年です。とりわけ今の日本社会にこそ、その混沌をどのように切り拓いて行くかが問題の本質であり、青年会議所の真価が問われています。混沌とは混迷とは異なり、マイナスの状況を示すものではなく、それ自体は正負どちらにも展開しうるエネルギーが充満したニュートラルな状態を表すものです。先行き不安という悲観的な捉え方ではなく、「未知の可能性」として前向きに捉え、努力を惜しまず何事にも諦めない信念を持ち、立ち向かう者こそがJAYCEEとしての姿です。

## STAY DREAM

本年度はスローガン「STAY DREAM」を掲げ、一大志を抱き、次代へと誘う燈火となれーをテーマに青年会議所運動を展開して参ります。「STAY DREAM」には夢を持ち続け、目的に向かって諦める事なく邁進しようという想いが込められています。人は目的を定めなければゴールが見えず、時には疲れ果て挫折をしてしまいます。目的とはこうなりたいという一つの未来の姿です。得たい結果が目的であれば、それまでの過程の中で必要になってくるのが夢や情熱であり、この夢や情熱が人を動かし、人生を彩るものと私は考えます。これは個人だけに当てはまるのではなく、組織として捉えた場合も同

じです。「明るい豊かな社会」の実現を掲げる我々の目的を達成する為には、まず大きな志と夢を持ち続け、その実現に向けて情熱溢れる行動を起こして行く事が重要です。今一度、我々自身が夢を持つ事の大切さを認識し、ファイナルアクションプラン「地域と共に夢と誇りを育む乙訓創り」を目的達成の為の重要なプロセスと捉え、私達が夢と誇りを持ち、努力を惜しまず、諦める事なく情熱を持って歩み続ける必要があります。そして新たな事へのチャレンジを楽しみつつも常に先見性を持ち、「明るい豊かな社会」の実現に向け、我々一人ひとりが変革の能動者とならなければなりません。

### 市民による主体的、継続的なまちづくりへの礎を築き地域力の向上を目指そう

現在、地域社会を取り巻く環境や住民のライフスタイル、また価値観の変化などに伴って地域ニーズや課題が多様化し、的確に対応して行く為には地域社会の中でも主体的な取り組みが欠かせなくなってきました。青年会議所の目的は「明るい豊かな社会」の実現であり、乙訓青年会議所では一つの到達点として2020年ビジョン「地球市民意識あふれる乙訓」を掲げ、先輩諸兄は「自立、共生、創造」を柱として活動をされて来られました。昨年度には創立35周年を迎える中でファイナルアクションプラン「地域と共に夢と誇りを育む乙訓創り」を提言させて頂き、「私たちが夢と誇りを持とう（自立）」、「私たちが夢を与えられる人になろう（共生）」、「私たちが誇りを持てるまちにしよう（創造）」と定義付けを行いました。これから先のまちづくりの方向性として乙訓に住まう市民一人ひとりが夢と誇りを持てる乙訓を創造する為にも、本年度はこれまでのまちづくり事業を振り返りつつ昨年度に開催された35周年記念事業の検証も踏まえ、早期に市民、地域諸団体、行政の方々と「自分たちの乙訓の未来を真剣に考える」意見交換の場を創出します。その上で地域力の向上に繋がる事業の実施を行い主体的、継続的なまちづくりへの礎を築きます。また重要な政治参加の機会である選挙においては、貴重な国民の権利であるにも係わらず投票率は低下傾向を辿っています。この現状を打破する為にも、まずは政治への興味を喚起し、自分達のまちの未来を真摯に考える機会を提供する事が市民主導型社会の実現に一步でも近づくと考えます。

「明るい豊かな社会」の実現に向かって行動し、地域社会の問題を青年の英知と勇気と情熱をもって解決する事で青年会議所の価値は生み出されます。その中で、地域の負託と信頼に応えると共に、乙訓青年会議所が未来永劫発展し続けて行く為にも、脈々と受け継がれて来た35年間の歩みや歴史を再認識し、その重みを知り行動する事が重要です。そして、市民による主体的、継続的なまちづくりを実現する為にも我々の運動、また活動に対して広く周知し市民の方々に「必要とされる団体」「信頼される団体」として広く親しまれる事が重要です。その為には公益社団法人を掲げ活動する上で「不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与するもの」を念頭に置き、我々の活動をより迅速かつ効果的に伝播する手段として広報誌やホームページ、時代に即したコミュニケーションツールを活用しま

す。これらを有効に活用する事でメンバー間はもちろん、地域諸団体や広く市民に対して本質の見える有益な情報を発信する事が可能となり、相互理解を促進する事が出来ます。広報活動を充実させる事が、より力強い信頼関係で結ばれたネットワークの構築に繋がり、即ち地域力の向上に向けた意識改革の一助になると考えます。青年会議所には各種事業への参加や、出向を通して多くの学びの機会が平等に存在します。一人でも多くのメンバーに様々な事業へ参加して頂く為にも、各種事業の内容や出向者からの情報をしっかりと共有する事が重要です。また出向を通して得た多くの学びを持ち帰り実践する事で、LOMの活性化に繋がると考えます。さらにメンバーが事業の趣旨を理解した上で参加し、また出向者に対して積極的に協力する姿勢を持つ事が出来れば、自ずと組織の底上げに繋がり、ひいては力強く元気な乙訓青年会議所が未来永劫発展し続ける事に繋がると考えます。

### 未来を担う乙訓の宝と、次代を担う乙訓のリーダーを育てよう

近年、子ども達が近所の公園や空き地、小学校の校庭や道端で遊んでいる姿を見かけなくなりました。私自身が幼少期に勉強よりも遊ぶ事に一生懸命になっていた事もこの虚しさを覚える一つの要因かもしれません。しかし、あまりにも見かけなくなったのは一言に寂しい限りです。一体今の子ども達はどこで何をしているのでしょうか。我々が育った幼少期は、近隣に住まう地域の大人がいつも見守り役であり見知らぬ大人によく怒られたものでした。その中で、やってはいけない事、これをやれば怒られるという人としての道、即ち道徳や倫理観を養ってきたように思います。今の子ども達も遊んでいないわけではありません。しかし、遊びに対して集団的から1人でも遊べるようなツールが子ども達の遊びに変化を与え、その結果コミュニケーションのあり方までも変えてしまった事は否めません。私は子ども達にとって自由時間の宝庫であった放課後や休日こそが、子ども達にとって知恵や発想を育み、コミュニケーションを図る重要な場であったと考えます。そんな当たり前であった事が今見過ごされてはいないでしょうか。またメディアを通して日々報道される目を塞ぎたくなる事件に於いては、事件を起こした子ども達が悪いのではなく、子どもを育てる親や周りの大人も含めた我々の道徳心の欠如や、子ども達とのコミュニケーション不足が大きな原因だと考えます。今の地域に必要なのは我々が親として、そして地域の大人としてのあり方や子ども達との関わり方を見直し、地域の大人としての道徳心を今一度養うと共に、他人の子どもも我が子と同じ、褒める時は思いっきり褒め、叱る時も思いっきり叱る。そんな一昔前の近所の怖くもあり、優しくもあった「おっちゃん」、「おばちゃん」が今の地域に必要なのです。この日本という国の未来を担い、我々が住まう乙訓を牽引する地域の宝として、「明るい豊かな社会」の実現を託す希望として、大きな志と夢を持ち続ける事の重要性と、和の心と利他の精神を伝え、様々なコミュニケーションを通して真正面から向き合いきましょう。

今、日本の景気は回復傾向にあると言われていますが、依然として先行きについては不

透明だと言えます。我々青年会議所メンバーは、「明るい豊かな社会」の実現を目的に運動を展開する青年経済人の集団です。我々は青年経済人として、また変革の能動者として経営者や地域のリーダーとしての模範となり社会的責任を果たす事が求められます。我々一人ひとりがリーダーとして今まで以上に自己を確立し、自ら率先して目の前の課題に向き合い、努力を惜しまず何事にも諦める事なく情熱を持ち行動する事が必要です。その中で、地域に必要なリーダーへと成長するには、まず自分自身の企業の存続と発展がなければあり得ません。その為に利潤の確保が必要となる事は言うまでもなく、自己の修練や研鑽を重ね自身の企業、経営基盤を強化し続けて行く事は企業基盤を確立するだけではなく、我が乙訓を活性化させより魅力的なまちの創造に繋がります。そして、企業の存在目的「利潤の確保や継続的發展」と同等に大切にしたいものがあります。それは、企業や自分に関わり合いのある人達です。その方々との信頼関係の構築も重要な要素であり、その中で経営者として、また地域のリーダーとしての自覚を持ち、品位の向上に努め行動へと移し地域に必要な人財となる事が我々の使命であります。我々は、大切な時間やお金を使い家族や社員の協力のもと青年会議所活動をさせて頂いています。楽しく愉快なだけでは何の意味もありません。今一度経営者として、また地域に必要とされる人財としての資質向上を図り、豊かな人間性を備え常に問題意識と確固たる使命感を持ち、主体的、積極的に行動出来る地域のリーダーとしての一步を踏み出しましょう。

### **互いの魅力を高め合い、本物の絆を構築する強固な組織を目指そう**

卒業という循環の仕組みを持つ青年会議所の組織に於いて、新たな人財の発掘と育成は我々の運動発信と未来の乙訓の発展の為に重要な要素のひとつです。現在、乙訓青年会議所は各地青年会議所の会員数が減少傾向にある中で会員数を維持しています。今後も会員数を維持し同志を増やして行く為にも時代に即した新たな試みを模索しつつ、過去の手法を継承し、さらに進化させLOMメンバー全員の拡大に対する意識と魅力を一層高める事で組織的な会員拡大に繋がると確信します。私の考える人としての魅力とは、目的達成の為に夢を持ち続け諦める事無く邁進し続ける姿だと考えます。メンバー自身に魅力が備われば自然と周りに伝播し、その志高い姿こそが同志を得る事に繋がります。結果、近い将来には会員拡大委員会がなくとも次代を担う同志が増え続け、我々の目指す「明るい豊かな社会」の実現に繋がる大きな財産になると確信します。しかし、新たな会員が増える一方で在籍年数の短期化が浮き彫りになっているのも事実です。一定の会員数を確保し、限られた時間での効果的な人財育成は青年会議所運動の根幹に関わる重要な問題であり、我々一人ひとりが危機感を持ち中長期的な視野に立ってこの課題に向き合う必要があります。メンバー一人ひとりが「青年会議所メンバーの一員である事」を自覚し行動しなければ、相手に志高い姿や魅力を伝える事など出来ません。その為には長年に渡って青年会議所活動を行っているメンバーが青年会議所の活動の意義や、守らなければならないルール

を日頃からしっかりと伝達しながらも、自分自身の行動や姿で示す必要があります。そして継続的に行われているFTセミナーにおいては、ある一定の形が構築されているのは事実ですが、新たな事にチャレンジする気概を持ちFMメンバーと担当委員会、さらに一部のメンバーが参加するだけの事業ではなく乙訓青年会議所の一つの事業として広い視野を持ち事業展開を行う事が重要です。その中で、これから活動を共にする同志としてLOMメンバー全員で若いメンバーの成長を見届けると共に、自身のJAYCEEとしての意識の高揚を図る事が自身と組織の魅力に繋がり、ひいては組織力の向上に繋がると確信します。今一度、自分自身が青年会議所の活動意義とJCバッジを付けている重みを認識し、確固たる信念を持ち「青年会議所とは」を周りに伝播出来る魅力あるJAYCEEとならねばなりません。

青年会議所は仲良しサークルではありません。しかし、青年会議所を通じて知り合った同志は一生の友となる事は事実です。それは「やる時には真剣にやり、当たり前を当たり前以上にやり遂げ成果をあげる。そして、遊ぶ時は真剣に遊ぶ」これが、乙訓青年会議所が周りからも元気で力強いと言われる最大の所以であります。今一度、この青年会議所運動と活動の意義をメンバー全員で意識の共有を図り、その中で「やる時はやる、遊ぶ時は思いっきり遊ぶ」のメリハリを持ち、相手の事を思いやり「ええもんはええ、あかんもんはあかん」と意見をぶつけ合い、夢を語り合い、何でも真剣に相談出来る真の絆を育もうではありませんか。そんな真の絆がさらに互いの魅力を高め、より一層力強く元気な乙訓青年会議所の組織力向上に繋がり、人生にも大いに役立つと考えます。そして、青年会議所活動を行う中で家族と社員の理解と協力の上で成り立っている事を忘れる事なく、感謝の気持ちをしっかりと相手に伝え、メンバーの志と活動内容を知って頂く機会を設け、我々の賛同者となって頂く事が重要です。そんな身近な人達からの理解がメンバーに多くの力を与え、必ず魅力ある元気で力強い乙訓青年会議所の源となる事を確信します。

### **公益で円滑な組織運営を妥協なく行おう**

乙訓青年会議所には、35年の間培われ進化を遂げてきた組織体系と組織を効率的に運用する為のシステムが存在します。その中で、我々青年会議所は「会議所」の名称の示す如く、会議を開催する機会が多い組織です。各種事業に於いての「計画、立案、結果検証、引継ぎ」はもちろんの事、全ては会議によって決まります。その中で、ロバート議事法を知っているといたないのでは、青年会議所活動を積極的に行いながらも、もちろん自身の会社を発展させていかなければならない40歳までの最も忙しい時期に時間の生産性に大差が出来ます。青年会議所活動は暇のある人でなければ出席率は上がらないと考える事は全くの錯覚で、むしろ忙しい中でいかに効率よく仕事を処理し、自己の成長に結びつけるかに意義があります。そのような意味から効果的な会議を進める為のルールであるロバート議事法の習得は、青年会議所メンバーとして必須の条件です。このルールを組織の運

営に携わるメンバーには、早い段階で理解をして頂く事がこれからの組織運営には重要な要素であると考えます。さらに、公益社団法人としての市民に開かれた公な団体である事を再認識すると共に、その運営方法や予算編成、執行に関するチェックや、コンプライアンスに対する意識を高め、信頼性のある管理体制を妥協なく徹底的に行う事が今の乙訓青年会議所に最も必要であります。今一度、公益で円滑な組織運営を行う為にも会議手法の習得と、守らなければならないルールを徹底し、厳しく妥協しない組織運営を目指しましょう。

### むすびに

青年会議所にはJC宣言・綱領、JCIクリード、JCIミッション・ビジョンがあります。ここに込められた意義を理解した上で活動を行う事が重要です。我々が地域社会の為、そして「明るい豊かな社会」の実現の為にどのような気概を持って活動を行っていかなければならないかを再認識し、35年間の歴史を築き上げてこられた先輩諸兄からの情熱と高い志を受け継ぎ、感謝の心を胸に秘め、先見性を持ち行動しようではありませんか。青年会議所という大人の学び舎に縁あって集った同志が熱くならなければ意味がありません。共に切磋琢磨し、何事にも負けない揺るぎない信念を持ち、がむしゃらに立ち向かう。そんな情熱溢れる、一つの大きな志高いチームとして、次代へと誘う燈火になろうではありませんか。そして、私達が夢と誇りを持ち、私達が夢を与えられる人となり、私達が誇りを持てる乙訓の実現に向け、努力を惜しまず、諦める事なく新たな一步を一枚岩となって踏み出しましょう。

夢なき者に理想なし

理想なき者に計画なし

計画なき者に実行無し

実行なき者に成功なし

故に、夢なき者に成功なし

変革の能動者である私達JAYCEEが「明るい豊かな社会」の実現に向け必要なのは、夢を持ち続け、何事にも諦める事なく邁進し続ける事です。

その気概が「STAY DREAM」